

17. 熊本大学パルスパワー科学研究所改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
研究	(2年間で改善する計画) 各研究者が世界トップレベルの研究課題と世界水準の研究課題を合わせ持ち、一流誌への投稿と論文数の維持発展を目指す。大型の予算獲得増加のため、個人的活動に加え、パルスパワー科学研究所として組織的に取り組む。	運営委員会及び研究所内会議において、さらに高いレベルの研究に取り組み、一流紙への投稿と論文数の維持発展に取り組むようお願いした。パルスパワーの分野にはインパクトファクター(IF)の高い論文誌はないが、分野の異なる論文誌への投稿を勧め、IFが8を超える論文誌への投稿も増えている。大型の予算獲得として、機能強化プロジェクト(パルスパワー先端国際共同研究推進プロジェクト)が平成27年度から4年間採択され、ヨーロッパから2名の若手研究者を採用し、出身研究所との共同研究を開始した。	さらに高いレベルの研究に取り組み、一流紙への投稿と論文数の維持発展への取り組みを進め、IFが4以上の論文にも投稿されるようになり、2016年度に5件掲載された。大型の予算として、文部科学省の新たな共同利用・共同研究体制の充実の枠組みで、パルスパワー科学技術共同研究拠点が6年間の予定で平成28年度に採択された。現在、39件の学外研究者との共同研究を開始した。
社会貢献	(2年間で改善する計画) 21世紀COE及びグローバルCOEプログラムの一環として立ち上げた産業化コンソーシアムを、パルスパワー科学研究所の活動と位置づけて、パルスパワー産業化コンソーシアムの再構築を行い、新たな参加者の関心や満足度調査等により、継続的改善を行う。	現在休止中である産業化コンソーシアムを再度立ち上げるにあたり、どのような構想にすると、産業界との連携がうまくいき、イノベーション創出に繋がるかの検討を行っている。	平成29年4月28日に、東京で、パルスパワー産業化コンソーシアムの会合を行うべく、作業を開始した。
その他 (男女共同参画)	(法人評価までに改善する計画) 平成27年4月よりパルスパワー基盤部門の准教授として、女性の専任教員が就任する。本学育児・介護支援制度の周知と利用に関しては、全学的取り組みに合わせて行う。	全学的取り組みに合わせて、「平成27年度第1期研究補助者雇用事業」に基づく研究補助者の雇用を行った。	出産・育児・介護を、熊本大学の業務と並行して行うには、在宅勤務制度が有効な手段であるとの認識があり、一部局ではできないので、全学で制度化を提案する。
管理運営	(法人評価までに改善する計画) 平成27年度に「国立大学における共同利用・共同研究拠点」への応募を行い、採択されるように努力する。	応募の結果、概算要求事項(新たな共同利用・共同研究体制の充実)として、平成28年度から6年間「パルスパワー科学技術共同研究拠点」が文科省段階では採択されている。最終的に採択が決定されることを期待している。	応募の結果、概算要求事項(新たな共同利用・共同研究体制の充実)として、平成28年度から6年間「パルスパワー科学技術共同研究拠点」が採択され、平成28年度は39件の学外との共同研究をスタートした。